

病害虫発生予察情報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

10月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量	
大豆	紫斑病	やや多い	果樹	ニホンナシの黒星病	やや多い	
野菜	白ねぎのさび病	少ない		ニホンナシのナシヒメシンクイ	やや少ない	
	白ねぎの軟腐病	少ない		ブドウのべと病	やや多い	
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	少ない		ブドウの黒とう病	並	
	白ねぎのネギアザミウマ	並		カキ（三社）の炭疽病	やや多い	
	白ねぎのネギハモグリバエ	並		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	少ない	
	白ねぎのシロイチモジヨトウ	並		モモのせん孔細菌病	やや多い	
	ハスモンヨトウ	並		花き 球根	チューリップの球根腐敗病	やや多い
	タバコガ類	少ない			きくの白さび病	少ない
果樹	果樹のカメムシ類	並			アブラムシ類	少ない
	リンゴの褐斑病	やや多い	ハスモンヨトウ		並	
	リンゴの炭疽病	やや多い	タバコガ類	少ない		

I 大豆

1 紫斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・主要感染時期である8月中～下旬の降水量がやや多かった（平年比162%）。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・刈遅れは発病を助長するので、刈り遅れに注意し、収穫後は速やかに乾燥する。

II 野菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は0%で平年（0.6%）より低かった。

(3) 防除対策

・防除指針 97 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は0%で平年（6.1%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・防除指針 98 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は1.0%で平年（8.5%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・さび病の防除に努める。
- ・防除指針 98 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 9月25日調査の被害株率は49.0%で平年(57.5%)よりやや低かったが、10月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 99～100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 9月25日調査の被害株率は28.0%で、平年(23.9%)並であった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 99 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は198.2頭で、平年(164.8頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 100 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は571.6頭で、平年(548.3頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 66～135 ページのハスモンヨトウの項参照

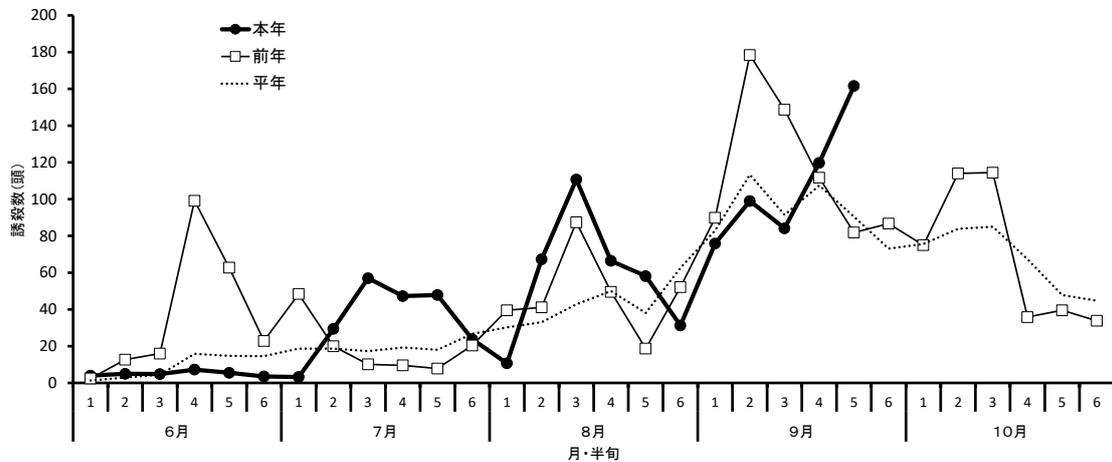


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数推移

8 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが6.7頭で平年（60.7頭）より少なく、オオタバコガも21.0頭で平年（113.1頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 66～132ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

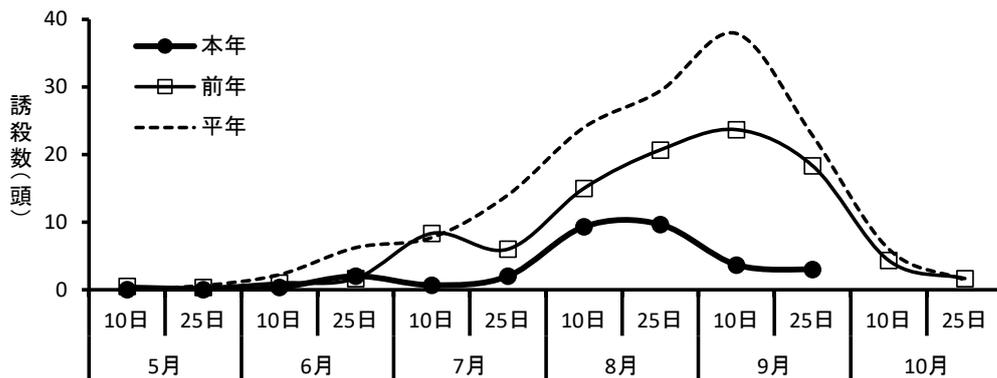


図2 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数推移

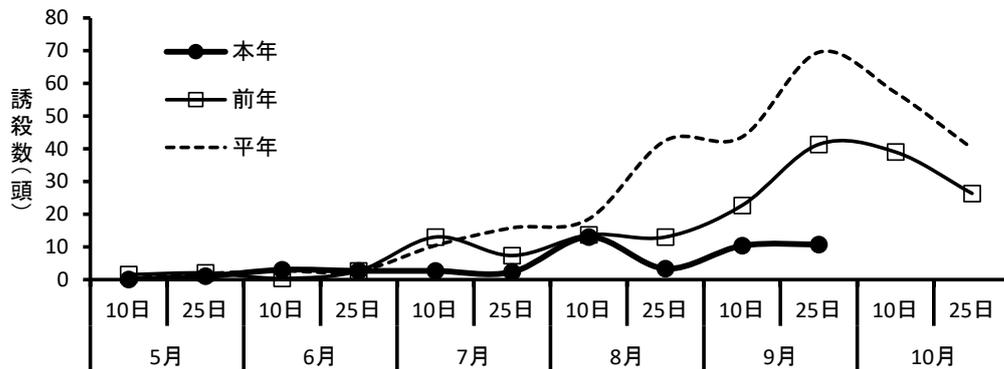


図3 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数推移

Ⅲ 果 樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
 (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月5半旬～9月4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は、3.5頭で平年（3.4頭）並だった。

- (3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、発生が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。

- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 リンゴ 144～145, 147～148 ページ、ニホンナシ 155, 158～159 ページ、カキ 169～170 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・9月以降発生が目立っており、一部園地では現在までの発生量が多かった。

- (3) 防除対策

- ・長雨が予想される場合や発生が多い園地では、殺菌剤を散布する。なお、QoI剤、SDHI剤（混合剤を含む）の使用は、耐性菌出現防止のため、原則2回以内とする。
- ・降雨で防除間隔が開きすぎないように、適期防除に努める。
- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・病原菌の越冬密度を下げるため、発生が多い園地では、休眠期に被害落葉をほ場外へ持ち出すか乗用草刈機で粉碎するなど、落葉処理を徹底する。また、薬剤の到達性を高めるため、混み合った枝や薬剤の届きにくい徒長枝などを切除する。
- ・防除指針 138, 140～142, 146～147ページ参照

3 リンゴの炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は、やや多かった。

- (3) 防除対策

- ・発生が多い園地では、効果の高い薬剤を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・り病した果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・防除指針 142, 146～147ページ参照

4 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・県内主要産地では、現在までの発生量がやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・芽基部感染による病原菌の越冬密度を下げるため、10月上中旬以降、10～14日間

隔で2回秋季防除を実施する。また、発生の多かった園地では、11月上旬に殺菌剤の追加散布を実施する。

- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理（園外に持ち出し適切に処分、乗用草刈機による粉碎処理、ロータリによる土壌すき込み等）を徹底する。
- ・防除指針 151～154, 157ページ参照

5 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月5半旬～9月4半旬の誘殺数は9.2頭で、平年（17.8頭）に比べやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。

6 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、収穫後に効果の高い薬剤（銅水和剤又は硫黄・銅水和剤）を散布する。
- ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害落葉を集めて園外に持ち出し処分する。
- ・防除指針 160～161, 164ページ参照

7 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害枝や棚線に残っている巻づるは除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・防除指針 160, 163ページ参照

8 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・一部園地では現在までの発生量が多かった。

- (3) 防除対策

- ・り病した枝や果実は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・定期防除に加え、台風等風雨後はQoI剤又はナリアWDGを散布する。
- ・病原菌の越冬密度を下げるため、り病枝はせん定時に切除する。
- ・防除指針 167～169ページ参照

9 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月5半旬～9月4半旬の誘殺数は、303頭で平年（783.3頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・発生の多かった園地や樹では、越冬幼虫の密度を下げるため、休眠期に粗皮削や殺虫剤（マシン油乳剤）の散布を行う。また、主枝の基部に古布や新聞紙等を巻きつけ、バンド誘殺を行う。
- ・防除指針 166～167, 169～170ページ参照

10 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は平年並だが、9月上旬の降水量が多かった。

- (3) 防除対策

- ・防除効果を高めるため、散布前に秋季せん定を実施する。
- ・多発した園地では、病原菌の越冬密度を低下させるため、10月上旬にICボルドー412（30倍）を追加散布する。
- ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）を散布する。
- ・防除指針 172, 175ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年11月の気温が高めに推移し、収穫時の腐敗病株が多い傾向にあった。
- ・一部で貯蔵球根に球根腐敗病の発生がみられている。
- ・10月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・罹病株を除去するなど種球の選別を徹底する。
- ・地温の高い時期の球根植付けは発生を助長するので、適期の植付けに努める。
- ・植付け前の球根消毒を確実に行う。
- ・防除指針 189 ページ参照。

2 きくの白さび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・9月25日調査の発病株率は0%と平年(0.2%)並に低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 192 ページ参照

3 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤による8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は452.0頭で、平年(1,148.4頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 190～212ページのアブラムシ類の項参照

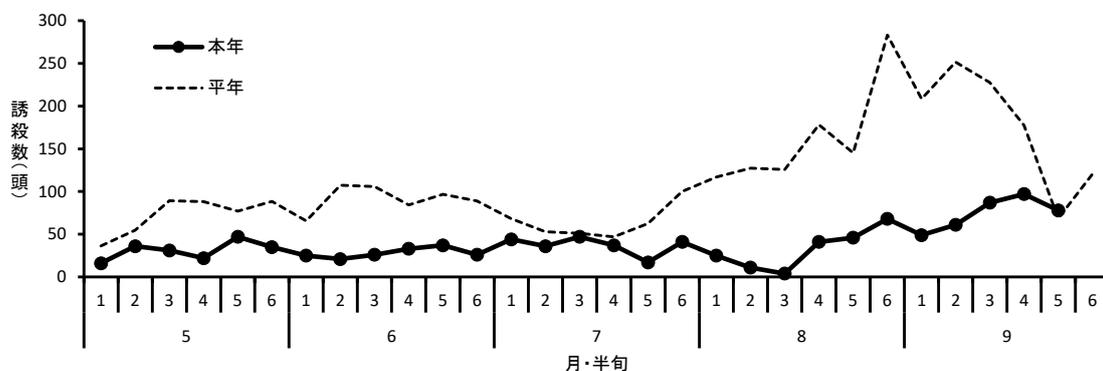


図4 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数推移

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は571.6頭で、平年(548.3頭)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 199～216ページのハスモンヨトウの項参照

5 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが6.7頭で平年(60.7頭)より少なく、オオタバコガも21.0頭で平年(113.1頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 198～216ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

- 適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう
- 周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

北陸地方 3か月予報
 (予報期間 10月から12月)

9月24日
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
 気温は、高い確率50%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

12月 平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

